



ヨルダン原子力委員会は、ATMEA1炉が現地の要求に適合しているとアナウンス

ヨルダン原子力委員会（JAEC）は、ヨルダン初の新規原子力発電所建設の炉型選定の評価を完了した。JAECの炉型選定の評価は、ヨルダン側のニーズに適合し、最高の安全レベルを確保できる技術の選定を目的としており、2年間に亘って、3つの候補炉型に対し厳密な審査が行われた。

その結果、三菱重工とAREVA社50/50のJ VであるATMEA社により開発されたATMEA1がヨルダン側のニーズ並びに技術、経済面双方の要求に適合していると評価された。

この決定は1,100MWの新鋭グローバルモデル原子炉として開発を進めてきたATMEA1にとって大きなマイルストーンの達成である。

JAECは次の評価段階でもATMEA社-AREVA社-三菱重工を含め、今回の選考を通過した2チームとの協議を継続するとしたが、この段階では、建設予定地並びに運転事業者の情報もあわせて総合的に検討される。

今回のJAEC決定は、経済性と安定性を兼ね備えたエネルギー源の確保を目指した本プロジェクトにとって大きな前進となった。

ATMEA社のナミ社長は『今回の選定により、ATMEA1がGeneration III+の原子炉として最高の安全レベル、実績のある技術、優れた運転性を持ち、ヨルダン側の厳しい要求を満足することが確認された。』と述べた。

今般のASN（フランス原子力安全庁）のATMEA1の安全性に関する発表で確認されている通り、ATMEA1の設計は、ヨルダンプロジェクトの最重要要求事項である、原子炉を守り、冷却し、閉じ込める為に必要な安全特性をカバーし、高い安全性を確保している。

また、我々日仏のチームはヨルダンの現地サプライヤーとも協調し、しっかりした現地のサプライチェーンを構築したいと考えている。

ATMEA1は中規模の電力送電網に適合することを目指して開発された1100MWのPWR（加圧水型軽水炉）です。ATMEA1はMHIとAREVA社がそれぞれ50:50で出資した2007年設立の合弁会社ATMEA社で開発されました。ATMEA社はこれら二つの親会社のサポートと世界で130基の原子力発電所の納入実績、約50年に亘る豊富な運転実績をそのベースとしています。

JAEC：ヨルダン原子力委員会（Jordan Atomic Energy Commission）

ASN：フランス原子力安全庁（L'Autorite de surete nucleaire/The Nuclear Safety Authority）

PWR：加圧水型軽水炉（Pressurized Light Water Reactor）